令和4年5月

衛生行政報告例からみえる歯科技工士の現状

一般社団法人　千葉県歯科技工士会
西俣稔子

令和2年度衛生行政報告例が令和4年1月27日に厚生労働省より発表された。この報告の就業歯科技工士数は、令和3年1月に就業地の保健所に提出した令和2年12月末現在の「歯科技工士業務従事者届」、また歯科技工所数については「歯科技工所開設届」をもとに集計されている。過年度も含め、厚生労働省サイトや e-Stat(政府統計ポータルサイト)で出されているデータを参照し、日本および千葉県の歯科技工士の就業状況について、衛生行政報告例のデータを用いて図表等にまとめた。

1. 日本の就業歯科技工士数と歯科技工所数

1-1　就業歯科技工士数の年次推移からみる年齢階級の変化

令和2年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況「就業歯科衛生士・歯科技工士及び歯科技工所」より、就業歯科技工士数の年次推移を表1に示す。

表１　就業歯科技工士数の年次推移

平成22年（2010年）	平成24年（2012年）	平成26 年（2014 年）	平成28年（2016 年）	平成30年（2018年）	令和2年（2020 年）	対平成 30 年	
						増減数	増減率
35,413人	34,613人	34,495	34,640人	34,468人	34,826人	358 人	1.0%

過去のデータと合わせて、年齢階級別に色分けした就業歯科技工士数の年次推移を図1に示す。

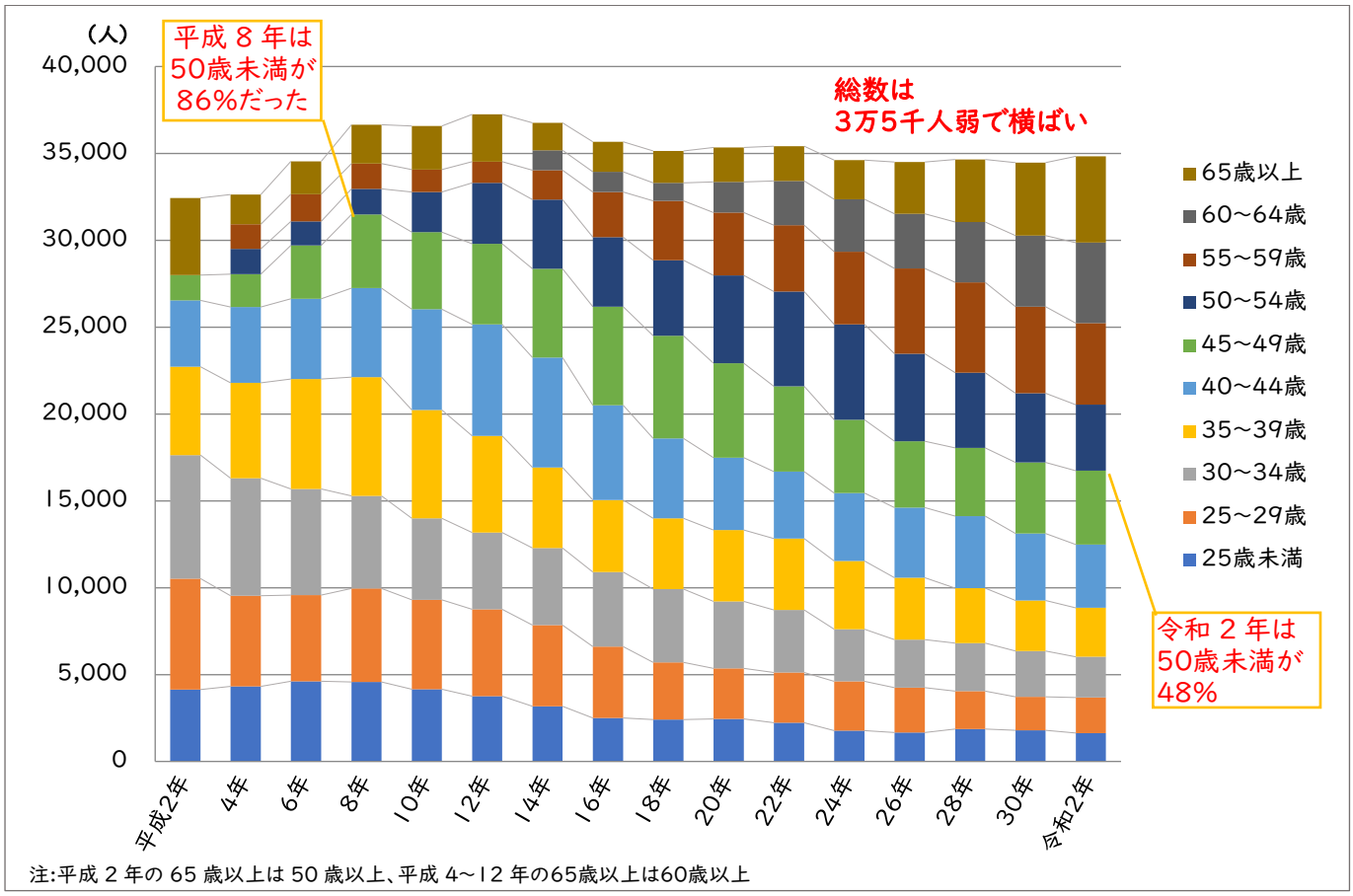

図１　就業歯科技工士数の年次推移（年齢階級別）

就業歯科技工士数は、平成12年(2000年)の37,244人をピークにやや減少したが、ここ十年は3万5千人弱で横ばいとなっており、総数では大きな変化はみられない。しかし、年齢構成を見ると、50 歳以上の割合が 20 年前の 20%から52%に増え、逆に若年層は減少している。

図1のグラフの元データとなる平成2年から令和2年の年齢構成別の就業歯科技工士数を表２に示す。特に最も多い年齢構成を色付きセルで表すと、平成2年では年齢構成のピークが「30～34歳」だったが、経年的にピークが高齢層に移行していくのが分かる。令和2年では遂に「65 歳以上」が前回比＋18.4%となり、最も多い年齢階級となった。

表２　就業歯科技工士数（年齢階級,年次別）　（単位：人）

	25歳未満	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	総数
平成2年	4,140	6,387	**7,108**	5,084	3,827	1,445	4,442				32,433
4年	4,315	5,218	**6,761**	5,504	4,353	1,903	1,446	1,416	1,713		32,629
6年	4,615	4,961	6,114	**6,317**	4,623	3,066	1,385	1,563	1,899		34,543
8年	4,581	5,383	5,312	**6,845**	5,122	4,239	1,476	1,453	2,241		36,652
10年	4,150	5,160	4,681	**6,235**	5,807	4,432	2,309	1,284	2,511		36,569
12年	3,760	4,998	4,424	5,561	**6,421**	4,628	3,510	1,221	2,721		37,244
14年	3,170	4,676	4,446	4,636	**6,315**	5,111	3,981	1,695	1,145	1,590	36,765
16年	2,493	4,125	4,285	4,153	5,453	**5,663**	4,002	2,595	1,175	1,724	35,668
18年	2,417	3,291	4,206	4,076	4,599	**5,907**	4,350	3,425	1,037	1,839	35,147
20年	2,450	2,907	3,860	4,103	4,164	5,442	**5,054**	3,619	1,761	1,977	35,337
22年	2,223	2,891	3,603	4,115	3,858	4,912	**5,451**	3,805	2,545	2,010	35,413
24年	1,766	2,836	3,006	3,927	3,920	4,208	**5,490**	4,191	3,019	2,250	34,613
26年	1,669	2,584	2,758	3,557	4,036	3,823	**5,042**	4,912	3,134	2,980	34,495
28年	1,862	2,179	2,762	3,174	4,137	3,940	4,318	**5,200**	3,471	3,597	34,640
30年	1,789	1,937	2,629	2,914	3,856	4,094	3,983	**4,977**	4,095	4,194	34,468
令和2年	1,636	2,042	2,343	2,818	3,646	4,249	3,797	4,695	4,633	**4,967**	34,826

：最も多い年齢階級

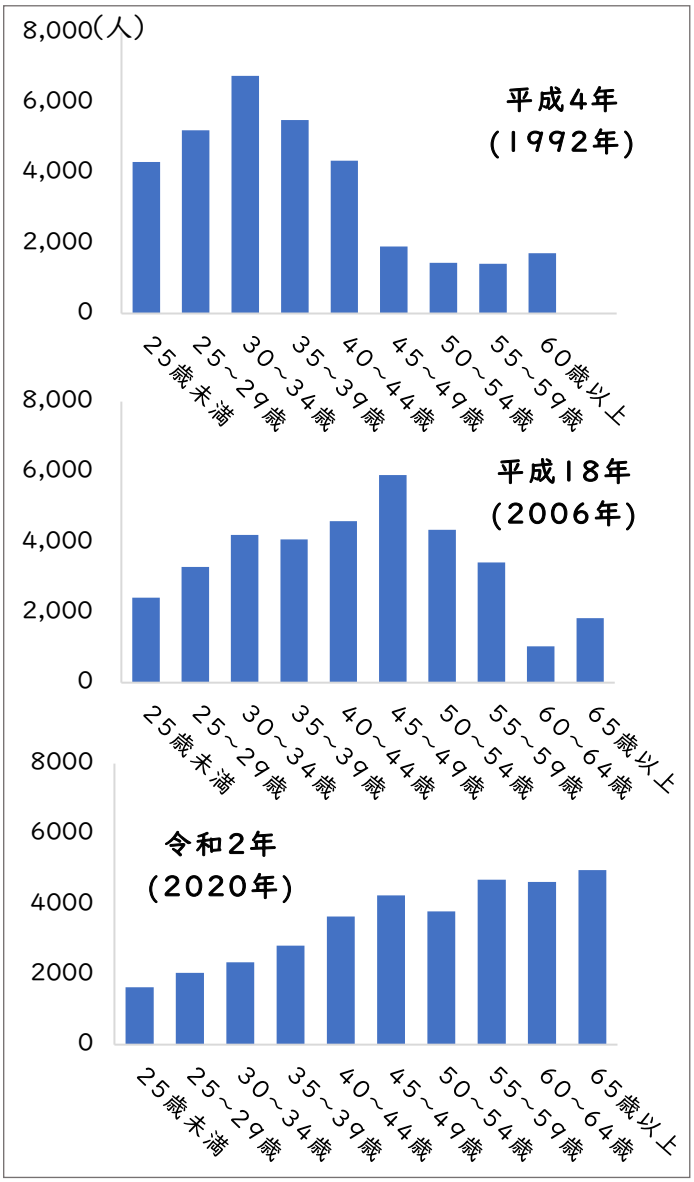

図３　就業歯科技工士数の年齢構成の推移

平成4年、平成18年、令和2年の年齢構成別の歯科技工士数（図2）を見ても、年齢層のピークが30歳前後から高齢層に移行しているのが分かる。

2020年の日本の人口ピラミッドを図3に示す。矢印の第2次ベビーブームのピークである1973年生まれ（2020年に47歳）以降、出生数は減少傾向にあり、今後の若年層の自然増加は見込めない。歯科技工士についても若年層が過去の水準に戻るとは考えにくく、歯科技工の担い手の確保のためには、現状のように65歳以上が仕事を続けていくことも重要であるが、先々を考えると、若い歯科技工士を離職させないこと、また就業していない有資格者が歯科技工に戻ってくるよう、職場環境や待遇の改善が必要であると考える。

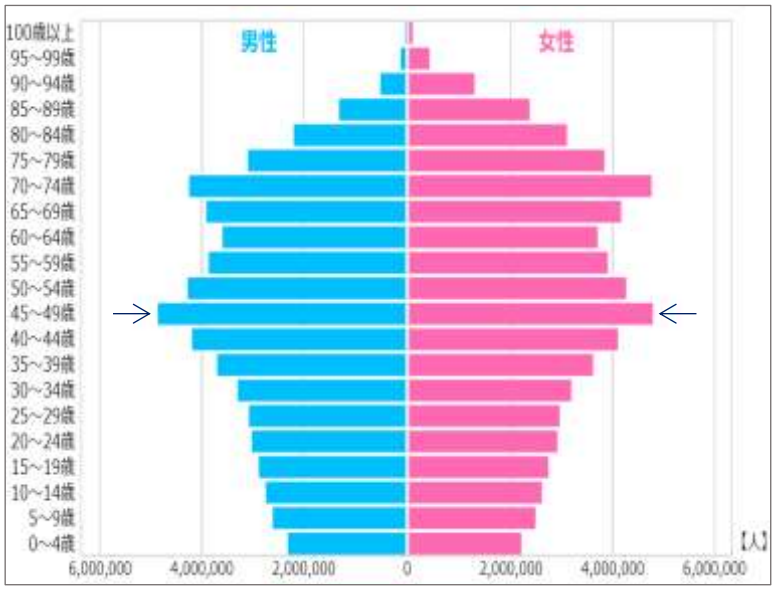

図２　日本の人口ピラミッド（2020 年）　出典　e-Stat

1-2　就業場所別でみる歯科技工士数

令和2年末現在の就業場所別歯科技工士数を表3に示す。

表 3　就業歯科技工士数（就業場所別）（令和2年末現在）

歯科技工所	病院・診療所	歯科技工士学校又は養成所	事業所	その他	総数
25,561人（73.4%）	8,691人（25.0%）	258 人（0.7%）	224 人（0.6%）	92 人（0.3%）	34,826人

就業場所別にみた就業歯科技工士数の年次推移を図4に示す。歯科技工所の歯科技工士数が人数・割合ともに経年的に増加しており、逆に病院・診療所の歯科技工士数は減少していることが分かる。

尚、以前は就業場所は「歯科技工所」「病院・診療所」「その他」の3分類だったが、平成28年に新たに「歯科技工士学校又は養成所」と「事業所」が追加され、5分類となった。しかし、本報告では特に記載のない限り、平成28年以降も新たに追加された2分類は「その他」にまとめ、3分類として集計した。

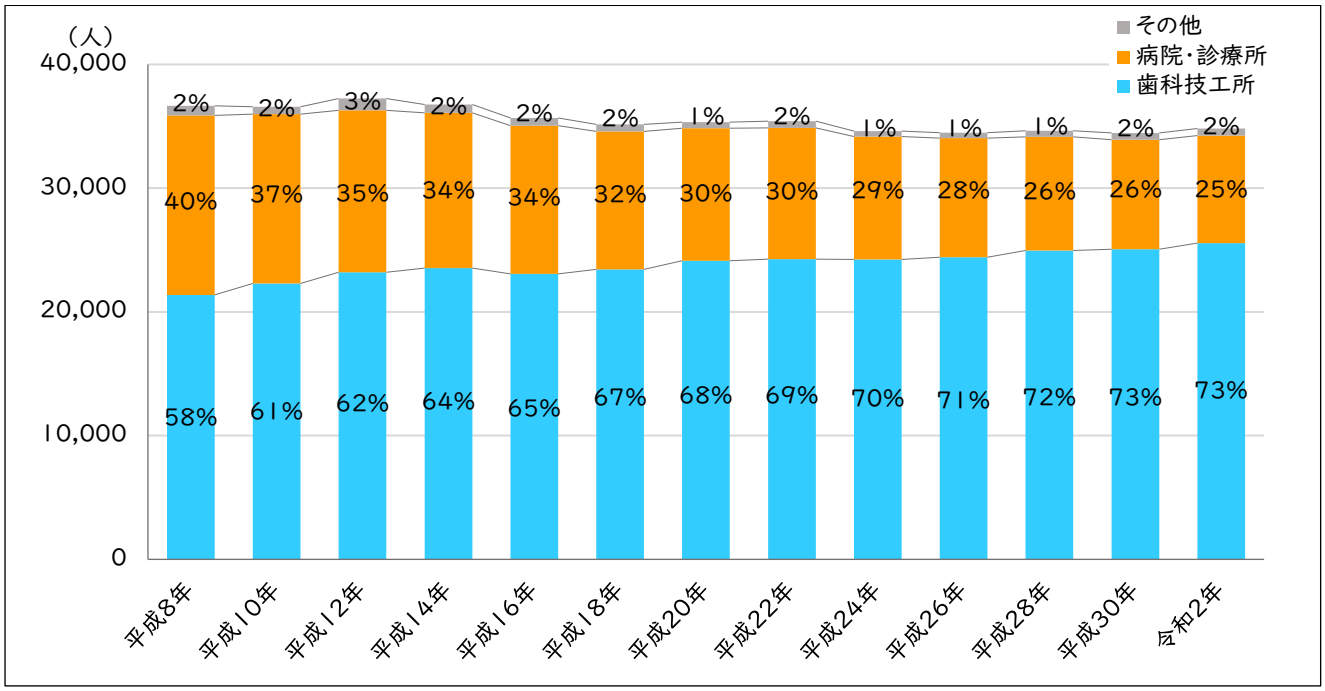

図 4　就業場所別の就業歯科技工士数とその割合の年次推移

令和 2 年の就業場所別の歯科技工士数を年齢構成別にみると（図5）、中堅層にはあまり差はみられないが、最若年層の25歳未満と最高齢層の65歳以上の歯科技工所の割合がやや高くなっている。

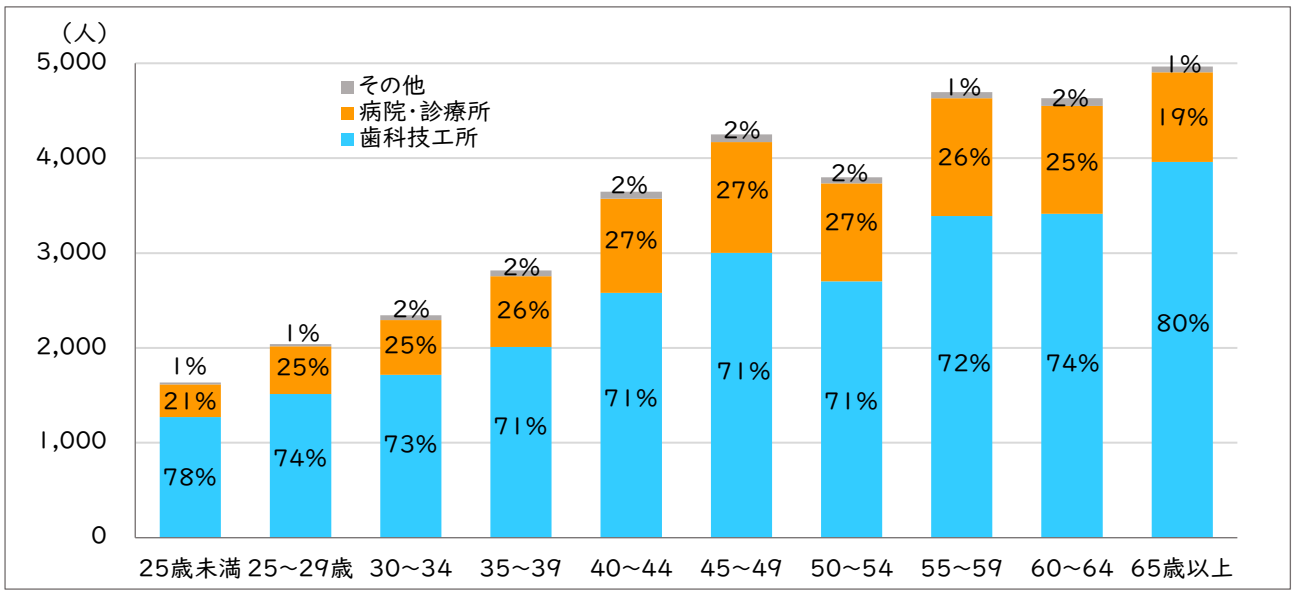

図 5　就業場所別の就業歯科技工士数とその割合（年齢構成別）（令和2年末現在）

1-3 性別でみる歯科技工士数

令和2年の就業歯科技工士数を男女別でみると、男性が 27,592 人（79.2%）、女性が 7,234 人（20.8%） で、全体では男女比4：1で男性のほうが多い。

男女別の就業歯科技工士数の年次推移を図4に示す。年々、女性が増加し続けていることが分かる。

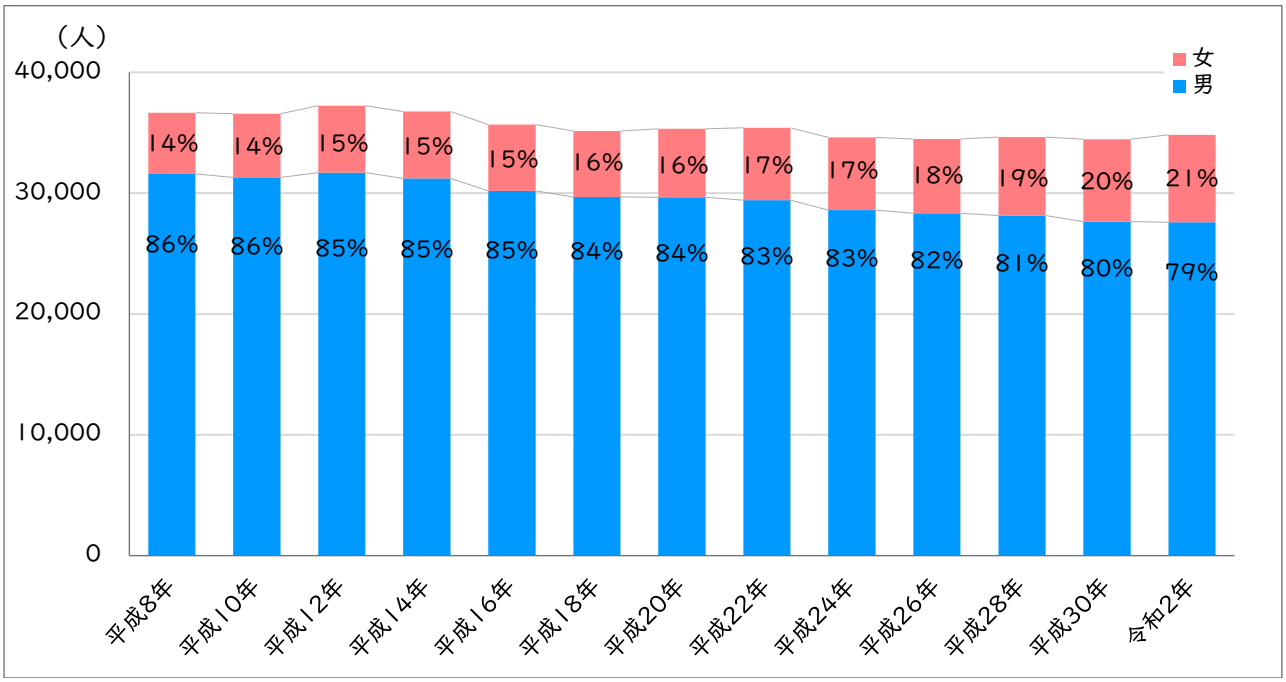

図 6　男女別の就業歯科技工士数とその割合の年次推移

男女比については年齢階級別にすると図7に示すように顕著な傾向がみられる。65歳以上は男性が95%で男性が圧倒的に多いが、年齢が若くなるにつれて女性歯科技工士の割合が高くなり、20代では男女ほぼ同数、特に25歳以下では女性のほうが 56%と男性より多くなっている。

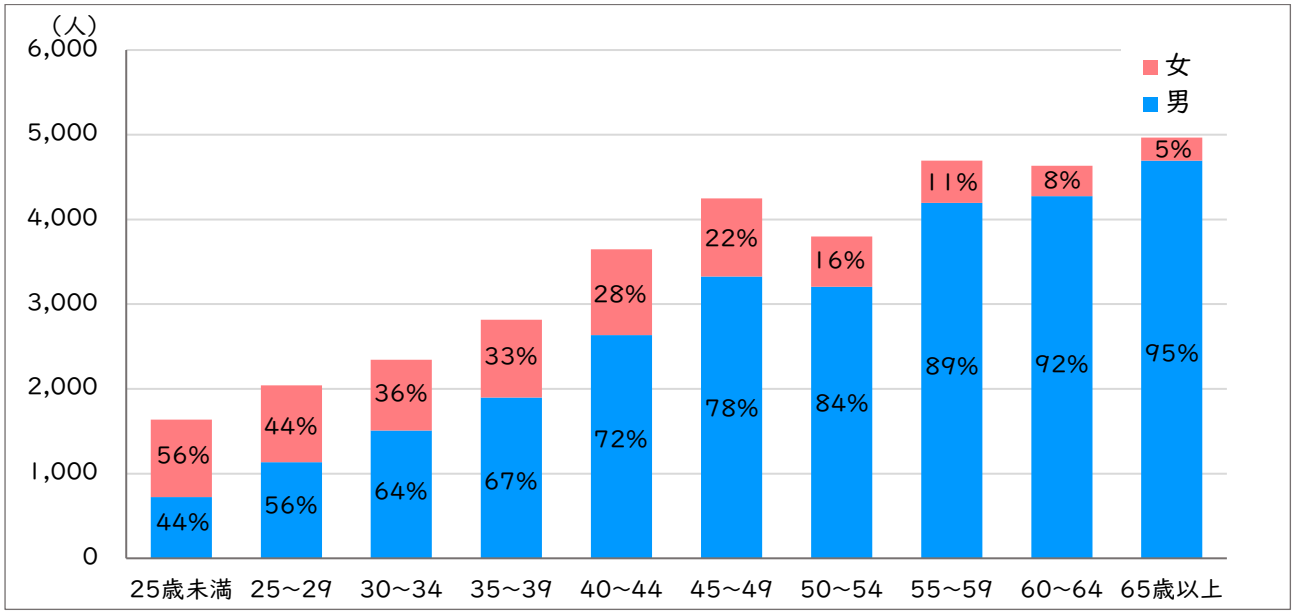

図 7　就業歯科技工士数と割合（年齢階級別・男女別）（令和2年末現在）

就業場所別に見た場合は、歯科技工所より病院・診療所のほうが女性の割合が高い傾向がみられる（図8）。

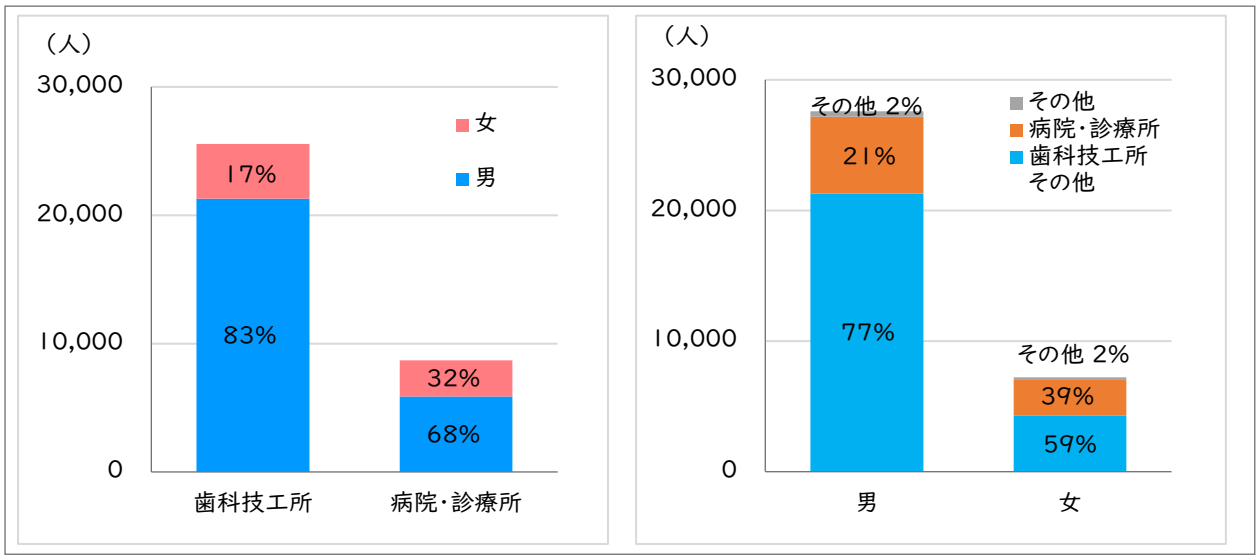

図 8　就業歯科技工士数と割合（就業場所別・男女別）（令和2年末現在）

さらに年齢階級別に分けてみると、特に若年層で病院・診療所の女性歯科技工士の割合が高くなっている（図9）。

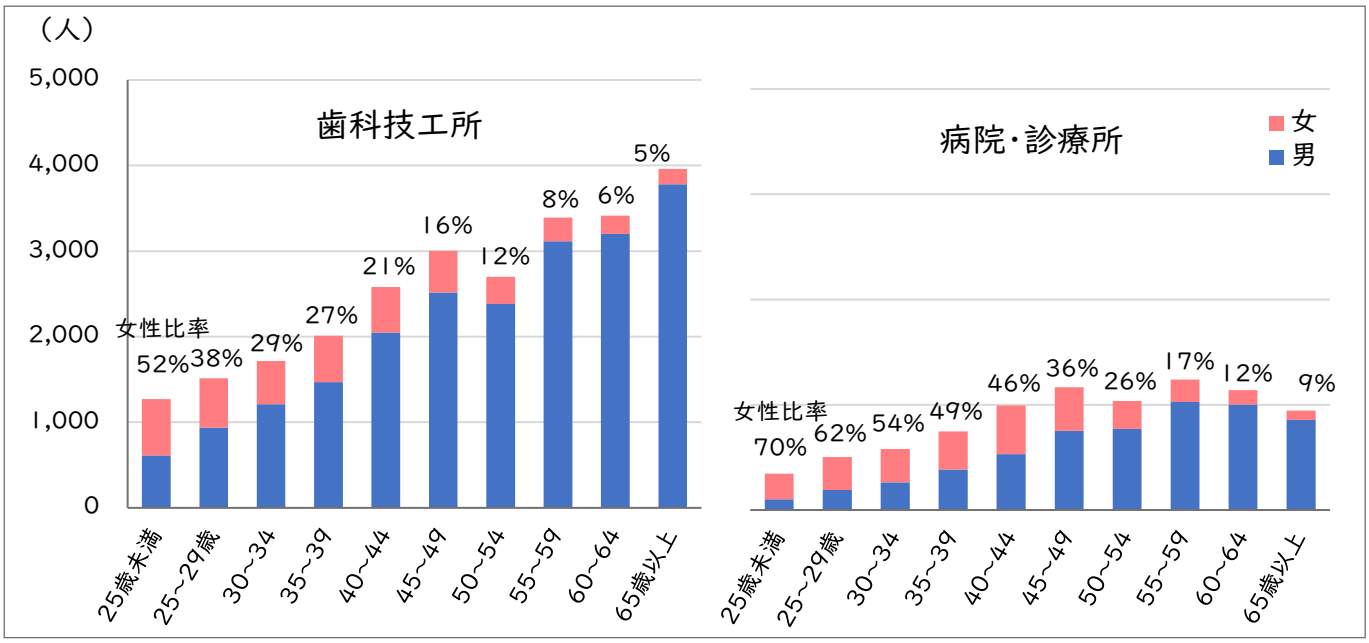

図 9　就業場所別の歯科技工士数（年齢階級別・男女別）（令和2年末現在）

1-4　歯科技工所数

令和2年度の業務従事者数別の歯科技工所数を表 4 に、割合を図 10 に示す。

業務従事者が1人の歯科技工所が最も多く、全体の4分の3以上を占めている。図 11 をみてもこの割合にほとんど変化はみられない。業務従事者数が増えるほどその歯科技工所数は少なくなり、1～4人の歯科技工所が全体95%を占めている。

表 4　歯科技工所数（業務従事者数別）（令和2年末現在）

1人	2人	3人	4人	5～9人	10～19人	20人以上	総数
15,932か所 （76.3%）	2,647か所 （12.7%）	869か所 （4.2%）	486か所 （2.3%）	656か所 （3.1%）	179か所 （0.9%）	110か所 （0.5%）	20,879か所

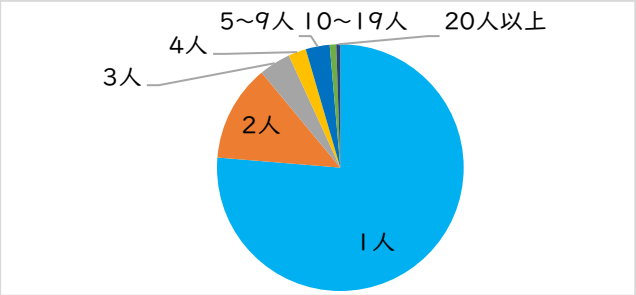

図 10　業務従事者数別 歯科技工所数の割合（令和2年末現在）

歯科技工所は前回に比べ125か所（0.6%）減少、と報告されたが、大きな減少ではなく、年次推移（図 11）をみると、ここ数年はほぼ横ばいである。業務従事者数別でもあまり変化はみられない。

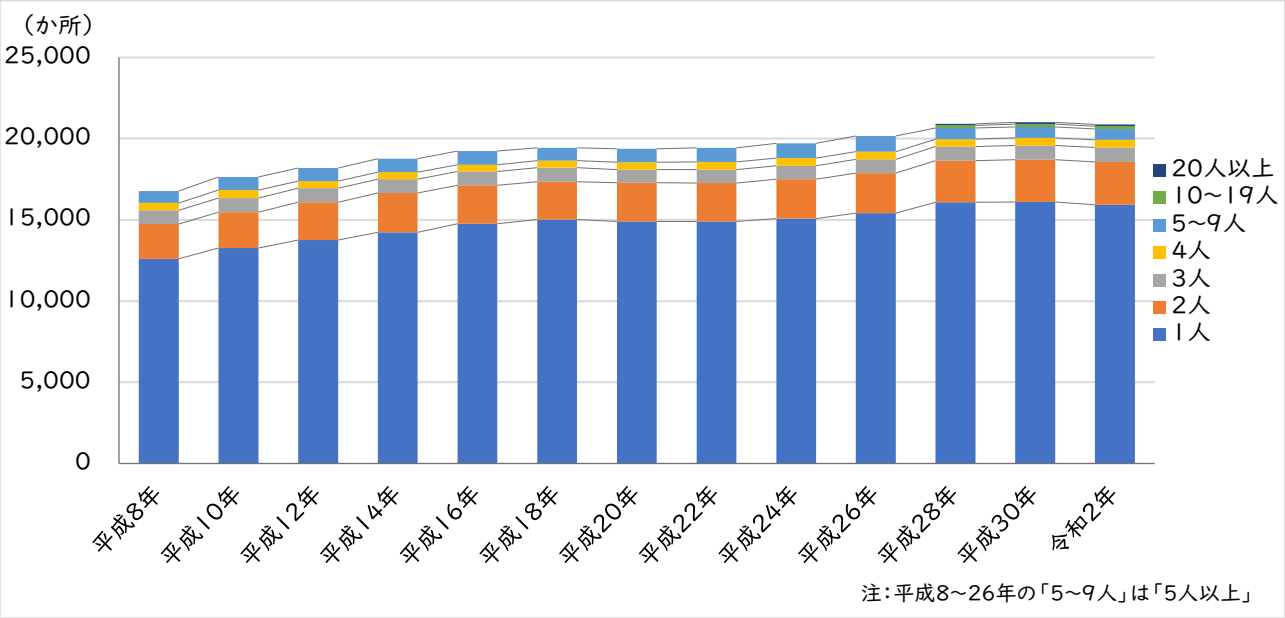

図 11　歯科技工所数の年次推移（業務従事者数別）

2. 千葉県の就業歯科技工士数と歯科技工所数

本章では千葉県の就業歯科技工士数と歯科技工所数について示す。

都道府県別の就業歯科技工士数を表 5-1、人口10万対の就業歯科技工士数を表 5-2 に示す。千葉県は就業歯科技工士数では全国9位と上位にあるが、人口10万対では45位と下位にある。

表 5-1 歯科技工士数の都道府県別順位（抜粋）（令和2年末現在）

順位	都道府県	就業歯科技工士数
1	東京都	3,208 人
2	大阪府	2,434 人
3	北海道	1,940 人
4	神奈川県	1,846 人
5	愛知県	1,625 人
6	福岡県	1,541 人
7	兵庫県	1,251 人
8	埼玉県	1,186 人
9	千葉県	1,181 人
10	広島県	1,005 人
38	宮崎県	352 人
39	和歌山	281 人
40	奈良県	272 人
41	沖縄県	255 人
42	福井県	249 人
43	山梨県	249 人
44	鳥取県	247 人
45	島根県	246 人
46	佐賀県	236 人
47	高知県	231 人
	全国 計	34,826人

表 5-2 人口 10 万対 歯科技工士数の都道府県別順位（抜粋）（令和2年末現在）

順位	都道府県	人口 10 万対 就業歯科技工士数
1	香川県	58.6 人
2	徳島県	58.4 人
3	大分県	54.3 人
4	鳥取県	44.6 人
5	岩手県	42.3 人
6	富山県	41.3 人
7	秋田県	41.1 人
8	新潟県	41.0 人
9	山形県	40.4 人
10	青森県	40.3 人
38	兵庫県	22.9 人
39	東京都	22.8 人
40	茨城県	22.1 人
41	愛知県	21.5 人
42	京都府	21.5 人
43	奈良県	20.5 人
44	神奈川県	20.0 人
45	千葉県	18.8 人
46	沖縄県	17.4 人
47	埼玉県	16.1 人
	全国	27.6 人

参考までに、千葉県の他の歯科医療従事者について挙げる。

・歯科医師数（千葉県を従業地とする）：5,221人（全国7位）、人口10万対81.5人（全国11位）（令和2年医師・歯科医師・薬剤師統計）

・就業歯科衛生士数：5,897人（全国9位）、人口10万対93.8人（全国41位）（令和2年度衛生行政報告例）

2-1 千葉県の就業歯科技工士数の年次推移

千葉県の就業歯科技工士数および人口 10 万対歯科技工士数の年次推移を図 12 に示す。現状では減少傾向はみられないが、年齢階級別データは得られていないので今後の予測はしにくい。

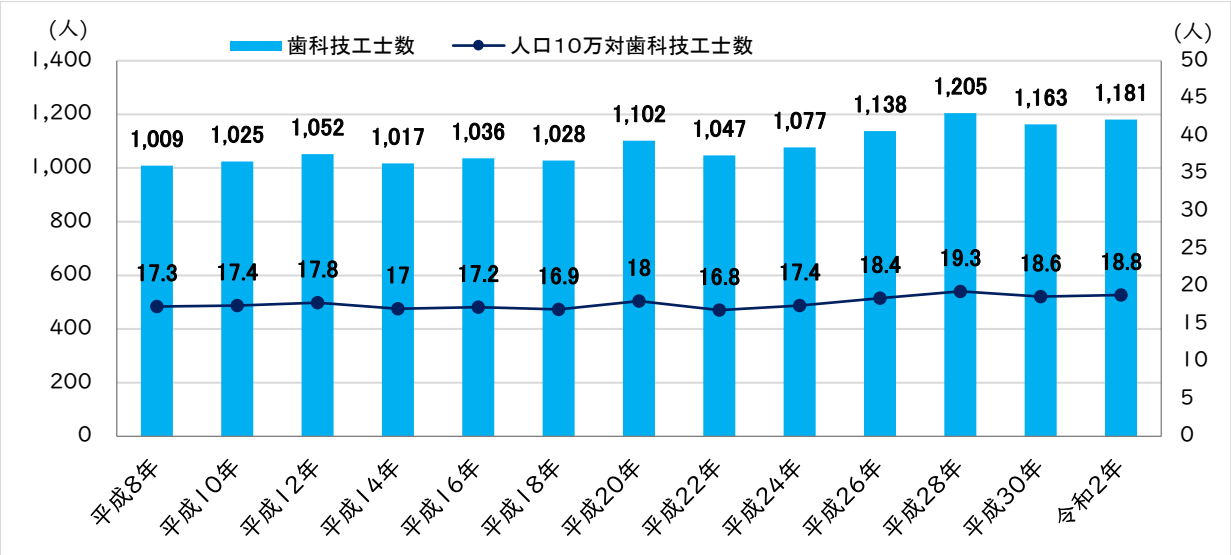

図 12 千葉県の就業歯科技工士数および人口 10 万対歯科技工士数の年次推移

2-2 就業場所別でみる千葉県の歯科技工士数

令和2年末現在の千葉県の就業場所別歯科技工士数を表6に、その割合を図 13 に示す。

表 6　千葉県の就業歯科技工士数（就業場所別）（令和2年末現在）

総数	歯科技工所	病院・診療所	歯科技工士学校又は養成所	事業所	その他
1,181人	975人	188人	9人	7人	2人

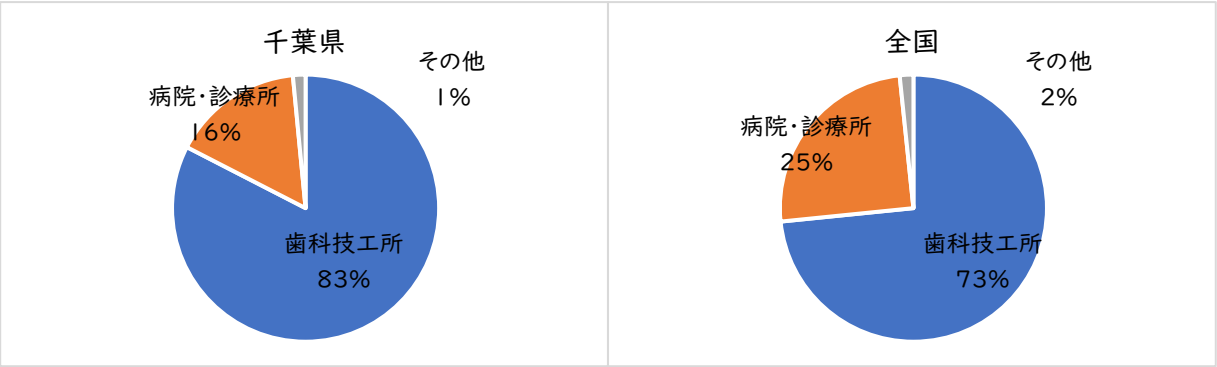

図 13　就業場所別歯科技工士数の割合（千葉県と全国の比較）（令和2年末現在）

就業場所別歯科技工士数の割合を見ると、千葉県は全国平均に比べ「歯科技工所」の従事者が多く「病院・診療所」が少ない。この傾向が高い上位5県は千葉県の他、神奈川県、山梨県、群馬県、埼玉県と地理的に近接しており、茨城県を除く他の関東圏・首都圏の都道府県はこの傾向が全国平均より高かった。

年次推移では、歯科技工所の割合が高くなっている傾向はほとんどの都道府県でみられるが、千葉県は平成16年に82%に上昇して以降は高止まりしたようになり、近年はあまり変化がみられなくなっている（図 14 参照）。

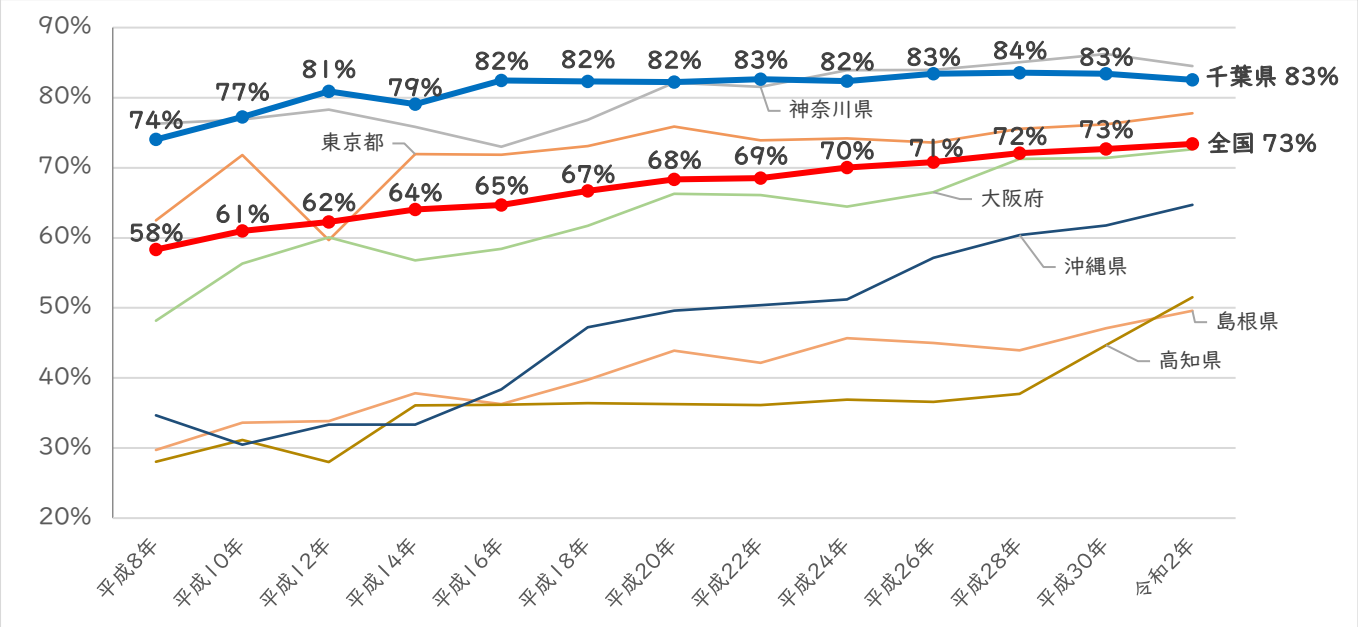

図 14　就業歯科技工士のうち歯科技工所に従事する歯科技工士数の割合の年次推移
（千葉県および全国、その他の都府県一部抜粋）（令和2年末現在）

また、医療施設調査（令和2年10月1日現在）を参照し、歯科医療施設について見てみると、歯科診療所の従事者数に占める歯科技工士数の割合は、全国平均2.7%に対し千葉県は1.5%と低く、他県を見ても神奈川県や埼玉県など、やはり関東圏は低い傾向がみられた。一方、技工物を外部に委託している歯科診療所の割合は、全国91.7%に対して、千葉県は91.8%で全国並み、また神奈川県は87.6%、東京都は86.9%と、歯科診療所数ベースでは技工物の委託率が関東圏で高いという傾向はみられなかった（国内で作成の委託先の場合）。

2-3 性別でみる千葉県の歯科技工士数

令和2年末現在の男女別にみた千葉県の就業歯科技工士数を表 7 に、年次推移を図 15 に示す。
全国平均よりやや男性の割合が高いが、男女比は概ね全国並みであった。

表 7　千葉県の就業歯科技工士数（就業場所別）（令和2年末現在）

	総数	歯科技工所	病院・診療所	歯科技工士学校又は養成所	事業所	その他
男	952 人（80.6%）	820 人	121 人	3 人	6 人	2 人
女	229 人（19.4%）	155 人	67 人	6 人	1 人	-

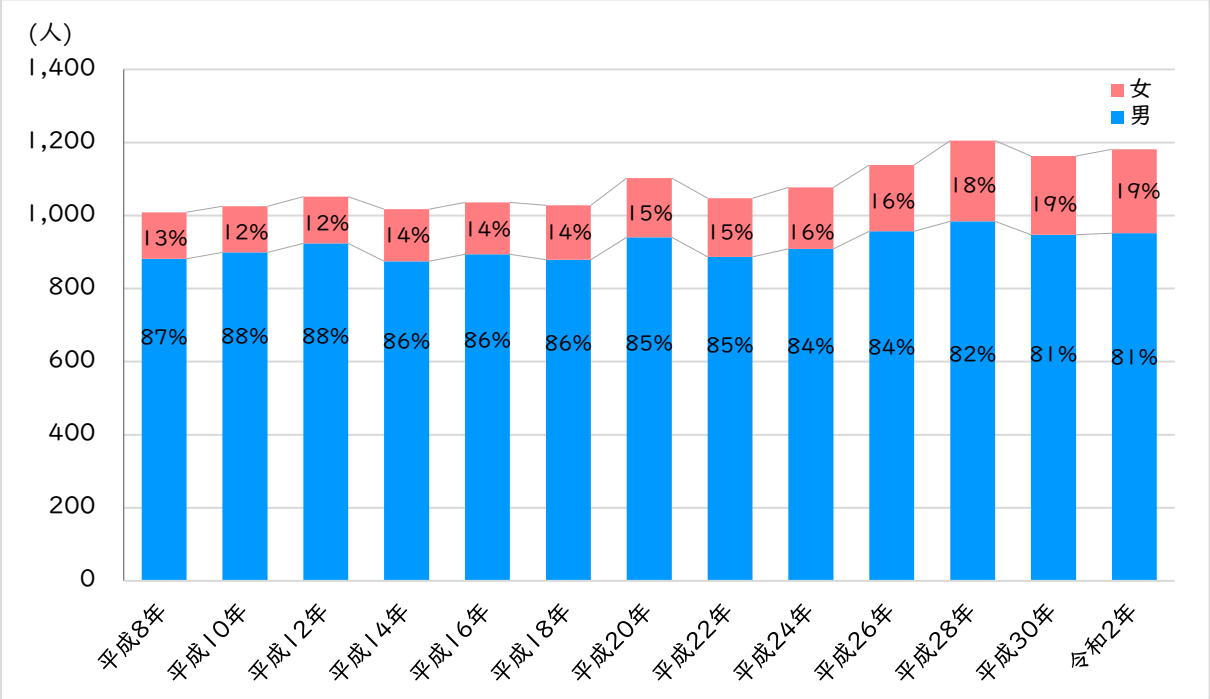

図 15　千葉県の男女別の就業歯科技工士数とその割合の年次推移

就業場所別で見ると、歯科技工所に比べ、病院・診療所の女性の割合が高いのは全国と同様に千葉県でもみられる。（図 16、※全国は図 8 参照）。

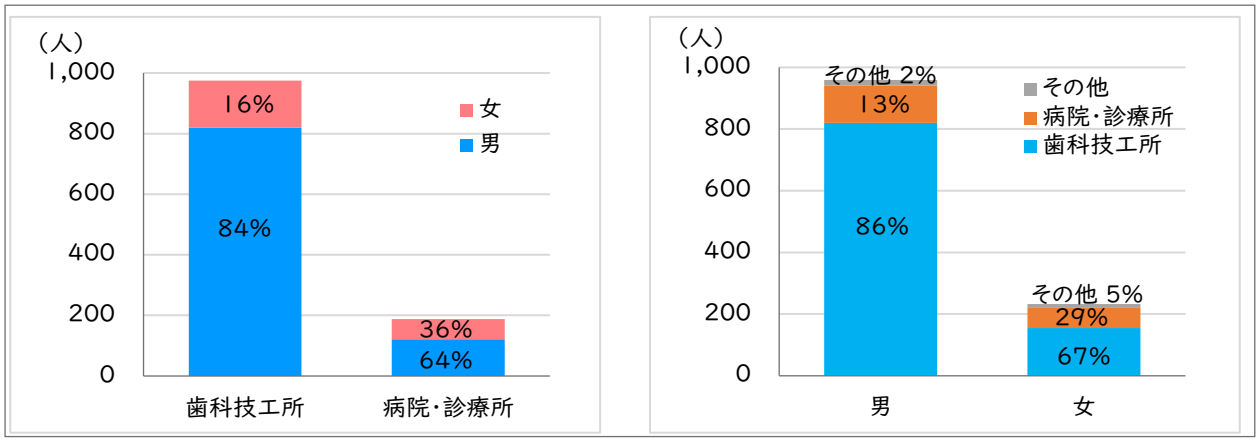

図 16　千葉県の就業歯科技工士数と割合（就業場所別・男女別）（令和2年末現在）

2-4　千葉県の歯科技工所数

令和2年度の千葉県の業務従事者数別の歯科技工所数を表 8 に、割合を図 16 に示す。

歯科技工所数の都道府県別順位では9位で上位ではあるが、人口あたりで多いということはない。また、業務従事者数別の割合は全国平均とほとんど差はみられない。

表 8　千葉県の歯科技工所数（業務従事者数別）（令和2年末現在）

1人	2人	3人	4人	5～9人	10～19人	20人以上	総数
616か所 （74.8%）	122か所 （14.8%）	28か所 （3.4%）	14か所 （1.7%）	31か所 （3.8%）	9か所 （1.1%）	4か所 （0.5%）	824か所 （全国9位）

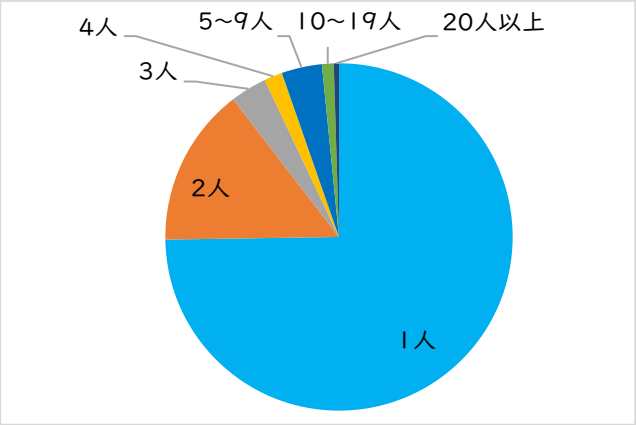

図 17　千葉県の業務従事者数別 歯科技工所数の割合（令和2年末現在）

千葉県の歯科技工所数の年次推移を図 18 に示す。前回調査より7か所（0.9%）増加した。業務従事者数1人の歯科技工所が29か所減少し、2人の歯科技工所が36か所増加したことで、業務従事者数別の割合が全国平均により近くなった。

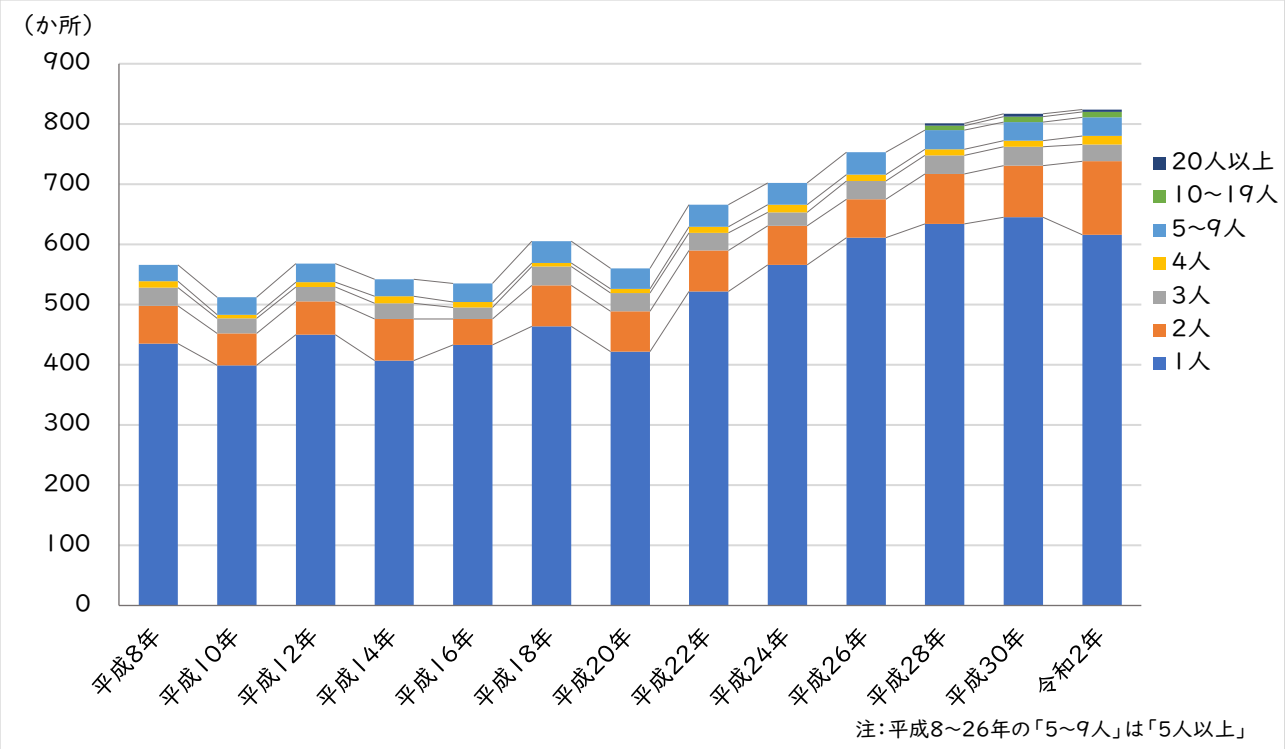

図 18　千葉県の歯科技工所数の年次推移（業務従事者数別）